



アートと地域をつなぐ新しい助成プログラム 気鋭のアーティスト5名を採択

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団では、アーティストを育成しキャリアアップを支援するための助成プログラムを2016年度より実施しています。この度、日々新しい表現を追求し、創作活動にはげむアーティストのキャリア形成を支援する助成制度「ACYアーティスト・フェローシップ助成」において、5名の助成対象者を決定しましたのでお知らせします。

今年度より新たに、「横浜市内の拠点での滞在および活動をする事」を募集内容に加え、横浜各地を舞台にアーティストたちが活動します。市民に身近なコミュニティ拠点でアートを展開することで、地域住民とアーティストが交わり、コミュニティの活性化や地域の魅力発見、人を惹きつける新たな価値創造につながることに期待しています。

1 助成名

ACYアーティスト・フェローシップ助成

2 支援内容

アーティストの多様な活動に対する助成金（各100万円×5名）をはじめ、横浜での滞在や制作のサポート、人的ネットワークの形成や情報提供、広報協力等で支援し、キャリア形成を推進します。

3 助成対象者

加藤 立（アーティスト）

坂本 夏海（アーティスト）

私道 かび（作家・演出家）

山岡 瑞子（映画作家・アーティスト）

ユニ・ホン・シャープ（アーティスト）

4 審査員

天野 太郎（東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）

岡本 純子（公益財団法人セゾン文化財団 シニア・プログラム・オフィサー）

野上 絹代（振付家・演出家、多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科専任講師）

藤原 徹平（フジワラテッペイアーキテクトラボ代表、横浜国立大学大学院Y-GSA准教授）

山峰 潤也（キュレーター、株式会社NYAW代表取締役）

※アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）は、（公財）横浜市芸術文化振興財団が横浜市にぎわいスポーツ文化局の補助金を受けて運営する事業です。（横浜市中区山下町2産業貿易センタービル1F <https://acy.yaf.jp.org>）

※ぜひ当助成プログラムの取材、情報掲載をお願い申し上げます。

お問い合わせ先 *本日は17:15まで在席しております。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

経営企画・ACYグループ グループ長 鈴木 敦 TEL: 045-221-0212

経営企画・ACYグループ 担当 小原 光洋 TEL: 045-221-0212



加藤 立 (かとう りゅう)

アーティスト。1979年愛知県生まれ。人間の行為を演劇的に捉え、異化し、パフォーマンスなどで作品化している。広島市現代美術館所蔵の作品『I am a museum』(2019)では、美術館所蔵の絵画を複製し、それを背負って美術館の外に出て、街中で出会った偶然の鑑賞者に絵画を観せるというパフォーマンスを行った。最近の活動に、『絵画の沈黙が聴こえてくる』(ANB TOKYO、2022年)、『鑑賞者』(第24回岡本太郎現代芸術賞、2021年)、『I am a museum』(広島市現代美術館、2019年)など。



坂本 夏海 (さかもと なつみ)

アーティスト。Back and Forth Collective メンバー。記憶の継承に埋め込まれたジェンダー役割の政治性を探求する映像インスタレーション作品を展開する。近年はフェミニズムの「周縁」に存在した女性の連帯の歴史調査を軸とした芸術実践を行う。最近の活動に「Song for Solidarity (Waulking Song)」(グラスゴー現代美術センター、2024年)、「When Bodies Whisper」(Timespan、2023年)など。

Photo: Alan Dimmick



私道 かび (しどう かび)

作家、演出家。京都を拠点に活動する団体「安住の地」所属。戯曲の可能性の拡張を目指し「小説を書き、それを基に戯曲を制作する」という手法を用いる。共同脚本・演出での創作も行う。身体感覚をテーマにした戯曲『いきてるみ』で第19回 OMS 戯曲賞佳作を受賞。脚本・演出作品『アーツ』が第16回せんがわ演劇コンクールにてオーディエンス賞を受賞。国際芸術祭あいちプレイイベント「アーツチャレンジ2022」や「茨城水郡線 奥久慈アートフィールド2022」等、美術の分野でも作品を発表している。

Photo: 山下裕英



山岡 瑞子 (やまおか みずこ)

映画作家/アーティスト。1998年渡米。2002年 Pratt Institute (NY) 卒業直後、事故に遭い帰国。中途障害者・帰国者の立場からの制作方法を模索する。2016年、バルセロナで初短編ドキュメンタリー制作。BankART AIR 2021への参加を経て、初長編ドキュメンタリー映画『Maelstrom (マエルストロム)』(2022)完成。ピッツバーグ大学 Japan Documentary Film Award 2022 受賞。その他、第23回ニッポン・コネクションなど、国内外の映画祭で上映されている。



ユニ・ホン・シャープ

アーティスト。東京都生まれ。現在はフランスと日本を拠点に活動。アーカイブや個人的な記憶から出発し、構築されたアイデンティティの不安定さと多重性、記憶の持続をめぐる、新しい語り方を探りながら、身体/言語/声/振付を通じてその具現化を試みる。最近の作品に、パフォーマンス『ENCORE』、映像インスタレーション『RÉPÊTE』など。2023年度アジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) フェロー。

アーティストが期間中に滞在する拠点



Photo:菅原康太

左近山アトリエ 131110

所在地：横浜市旭区左近山 16-1 左近山団地 1-31-110

大規模団地、左近山団地内ショッピングセンターの店舗を活用したアート拠点。ギャラリー／ワークショップ／カフェなど、屋外の広場とも連携し様々な活動を展開している。

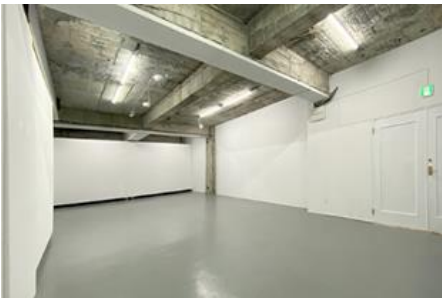


Photo:渡辺篤

アートスタジオ アイムヒア

所在地：横浜市南区弘明寺町 259 GM2 ビル 2 階

アイムヒア プロジェクトと株式会社泰有社の共同運営によるオルタナティブスペース。さまざまな展覧会／イベント／レジデンスプログラム等を実施している。



Photo:大野隆介

ARUNO -Yokohama Shinohara-

所在地：横浜市港北区篠原町 1410

新横浜駅近くの旧横浜篠原郵便局を活用した文化複合拠点。「未知への窓口」をコンセプトにしたシェアスペースやカフェ、ポップアップテナント等からなる施設。



Photo:堀越圭晋 (エスエス)

Murasaki Penguin Project Totsuka

所在地：横浜市戸塚区戸塚町 4247-21 地下 1 階

2022年9月にオープンしたパフォーマンスアーツとマルチメディアアートの新しい拠点。ダンスや演劇、音楽、映画など、さまざまな形態の作品発表が可能。



Photo:大野隆介

Co-coya

所在地：横浜市緑区中山 5-9-1

空き家をリノベーションした職住一体型の地域ステーション。土壁や漆喰、草屋根など自然を感じさせる改装手法が活かされ、多種多様な活動が繰り広げられている。